

埋文だより

第86号

令和3年10月30日発行

篤姫も過ぎた？

鹿児島城跡大奥の遺構を発見！



17世紀ごろの土師器と土坑

江戸時代の遺構検出状況

この写真は、5～6月に鹿児島城跡(鹿児島市山下町)の発掘調査が行われた際に発見された、江戸時代の鹿児島城本丸大奥の柱跡と考えられる柱穴列と土坑です。等間隔(約60cm)で1列に並んでいる柱穴(直径約30cm)が8基見つかりました。そのうち、2基からは礎石(縦×横×厚：20cm×20cm×15cm)も見つかっています。

見つかった柱穴列は、本丸大奥の境界を区切っていた塀跡の可能性もあり、鹿児島城内の土地利用を解明する手がかりとなることが期待されます。

目次

- ・鹿児島城跡大奥の遺構を発見…………… 1
- ・発見！発掘速報…………… 2
- ・新刊報告書紹介…………… 3
- ・夏季研修講座…………… 4
- ・河コレ遺跡めぐり(③ 中岳洞穴)…………… 5
- ・ワクワク考古楽授業支援…………… 6

発見！発掘速報

今年度、県内各地で発掘調査を行っています。埋蔵文化財センターの発掘調査成果の一部を紹介します。

確認調査で分かったこと —北山遺跡・新城跡—(阿久根市山下)—

5月から6月にかけて、阿久根市の北山遺跡・新城跡の調査範囲を決める確認調査を行いました。北山遺跡は、中世にこの地域を支配した莫祢氏の居館があったと伝えられる場所で、新城跡は、莫祢氏の本拠地である阿久根城の支城とされます。

確認調査の結果、北山遺跡からは縄文時代早期（約9,500年前）・古代～中世と考えられる遺構や遺物が発見され、調査対象地全面に遺跡が広がっていることが分かりました。新城跡は、堀と考えられる箇所を調査を行い、その範囲を確認しました。



遺物出土状況

今後の本調査で、さらなる発見があることが期待されます。

古墳時代の複数の建物跡 —久保田牧遺跡—(鹿屋市吾平町)—

主要地方道鹿屋吾平佐多線（吾平道路）の建設工事に伴う発掘調査を行っています。これまでの調査で、縄文時代早期から近世にわたる時期の遺構・遺物が発見されていますが、今回はその中でも古墳時代（約1,500年前）の堅穴建物跡の調査成果について紹介します。

堅穴建物跡は、古墳時代の人々が「住まい」として使用したとみられるものです。これまでに19軒を調査しました。基本的な特徴として、①支柱は2本または4本 ②明確な炉が確認されていない ③壁際に溝状の痕跡が確認されるもの（壁帯溝）が多いという点が上げられます。また、多くの堅穴建物跡が床面を池田火山灰層（池田湖由来：約5,600年前）まで掘り込んでいますが、アカホヤ火山灰層（鬼界カルデラ由来：約7,300年前）まで掘り下げているものも3軒確認されています。また、一カ所では床面の違う2基の切り合いが確認され、本遺跡に一定期間人々が住み続けて、建て替えがあったことがうかがえます。



古墳時代の堅穴建物跡

今後、今回発見された遺構・遺物はもとより、他地域などにおける事例との比較なども行いながら、検討を進めていく予定です。

弥生時代への変わり目の祭祀跡か？ —立塚遺跡—(鹿屋市吾平町)—



石皿と軽石製装飾品出土状況

立塚遺跡は鹿屋市吾平町麓に所在します。標高約40mのシラス台地に立地し、その麓には始良川と大始良川が流れています。これまでに縄文時代晩期～弥生時代前期（約2,900～2,500年前）と古代の二つの時代の遺構・遺物が見つかっています。

古代では、畑跡と考えられる畝間状遺構群や柱跡が見つかっています。遺構の埋土には、貞観16(874)年に開聞岳が大噴火をした際の火山灰とされる紫コラや火山砂礫が堆積していました。隣接する廣牧遺跡や久保田牧遺跡でも同時代の遺構が見つかっており、付近一帯に古代の集落・畑が営まれていたことが明らかになりました。

これまでに古代の遺物はほとんど出土していませんが、今後の調査で開聞岳の噴火がこの地に与えた影響、集落の変遷や火山災害からの復旧・復興の様子がわかるかもしれません。

縄文時代晩期から弥生時代前期では、刻目突帯文土器や土掘り具と考えられる打製石斧などが出土しています。遺構では、割れた石皿など扁平な石材を伴う土坑が見つかっていて、中には、石材を立てて配置し、軽石製の装飾品と一緒に埋められていたものもあります。この時代、立塚遺跡は何らかの祭祀を行う場だったのかもしれませんが。

新刊報告書紹介

昨年度、県立埋蔵文化財センターでは7冊の発掘調査報告書を刊行しました。その中で、前号で紹介した以外の4つの報告書についてご紹介します。



重要遺跡の再評価 —上加世田遺跡—(南さつま市加世田)—



上加世田遺跡は、南さつま市加世田に所在します。本県の考古学を長年にわたってリードしてきた河口貞徳氏が、昭和43年から調査に携わった遺跡です。本報告書は過去の図面や資料、遺物を今日的視点から再整理・再報告したものになります。縄文時代後期末から晩期の遺構・遺物が発見されており、特に後期末の土器は「上加世田式土器」とよばれ、本遺跡が標式遺跡となっています。石器では勾玉や軽石で作られた岩偶、翡翠で作られた玉製品（獣形勾玉）が出土しました。



翡翠製玉製品

薩摩武士の武芸の鍛錬場 —鹿児島城跡【犬追物馬場・火除地】—(鹿児島市山下町)—



犬追物馬場・火除地は、復元された鹿児島城御楼門と国道を挟んで反対側に位置しています。中世から近世にかけての遺構・遺物が発見されました。近世では、大量の焼土や炭化物が出土する層が発見され、元禄9(1696)年の大火の際に処理された瓦礫などの層が明らかとなりました。また、鹿児島城本丸に向かって延びる溝状遺構に伴い、六角形に加工された杭列が見つかりました。中世のころ、柵で囲んだ馬場に犬を放ち、馬上から射る「犬追物」という武芸の鍛錬が行われていましたが、薩摩藩では近世まで行われていたようです。杭列はその馬場を囲んでいた柵の杭であることが分かりました。



犬追物馬場の杭

西南戦争関連4遺跡



本報告書は明治維新の立役者、西郷隆盛が起こした西南戦争に関連した遺跡の報告書です。滝ノ上火薬製造所跡は鹿児島市稲荷町に所在し、水車動力により火薬や弾薬を作っていた施設です。明治10(1877)年1月下旬、明治政府は滝ノ上火薬製造所などにある兵器・弾薬を密かに運びだそうとしました。それを知った鹿児島の士族たちは激怒し、それが西南戦争のきっかけになったと言われています。当時の石垣や導水路が見つかりました。

高熊山激戦地跡は伊佐市大口に所在し、明治10(1877)年の西南戦争における大口の戦いの際の激戦地です。山頂に堡壘跡（小規模な陣地）9基が現存しています。調査では西郷軍・政府軍が使用していたと思われる銃弾や薬莖などが出土しました。

チシャク迫堡壘跡群は霧島市牧園町に所在します。牧園町では2回戦闘が行われており、その際に築かれた堡壘跡が現在でも町内に複数残っています。そのうちチシャク迫に残る7基を調査しました。

岩川官軍墓地跡は、曾於市大隅町に所在し、西南戦争で亡くなった政府軍の戦死者を埋葬した墓地です。79基の墓石と残欠7基があります。調査では墓坑と思われる土坑が2基発見されました。



出土した銃弾と薬莖

県内遺跡事前調査結果の報告書

遺跡の発掘は、調査区全面を調査する本調査の前に、遺跡の有無を判断する試掘調査、遺跡の時代や範囲などを判断する確認調査が行われます。本報告書は、平成23年度から30年度にかけて、県内各地で行われた試掘調査182件、確認調査27件の結果を記載しています。



埋蔵文化財センター 夏季研修講座

県立埋蔵文化財センターでは、学校の先生方や市町村の埋蔵文化財担当職員を対象とした研修講座を毎年開催しています。今年度も、7月から8月にかけて、主に以下の内容で講座を開催し、様々な研修や体験活動を行いました。

フレッシュ研修『地域体験研修』

初任の教職員を対象にした、研修講座です。8月17日～19日に実施しました。所内見学や土器洗い、土器接合、拓本といった整理作業の業務体験を通して、埋蔵文化財に関わる仕事について理解を深めました。

【感想（抜粋）】

- ☆ 3日間を通して、普段することができない貴重な体験をすることができた。自分の知識や情報が、研修を通じてつながっていった。
- ☆ 土器に触れたり、火起こし体験をしたりするなど、とても貴重な経験をすることができた。今回知ったこと、感じたことを子どもたちへ伝えていきたい。
- ☆ 今後の教育活動でも、施設を有効に活用し、生徒とともに多くの学びを得ていきたいと感じた。



土器接合作業の様子

パワーアップ研修

7月29・30日にパワーアップ研修、8月5・6日に先生のための考古学講座を実施しました。パワーアップ研修は10年経験の教職員、先生のための考古学講座はすべての教職員を対象とした研修講座です。

埋蔵文化財センターと上野原縄文の森のそれぞれの業務と役割や、遺跡にみる鹿児島県の歴史や文化についての講義、センター業務の体験、火起こし、アクセサリー作りなどの古代生活体験を通して、子どもたちの指導に活かせるよう研修を行いました。



所内見学の様子

埋蔵文化財専門職員養成講座(初級講座)

市町村の埋蔵文化財担当職員を対象とした講座で、内容により初級・中級・上級に分けて実施しています。

今回は初級講座を7月29・30日に実施しました。埋蔵文化財保護行政に関する業務の研修や各市町村の現状と課題等についての情報交換を行いました。今後、中・上級講座を開催する予定です。



市町村担当職員の情報交換

河コシ遺跡めぐり

河コシ遺跡めぐり
河川貞徳氏の歩んだ遺跡
なかだけどうけつ

③中岳洞穴（曾於市末吉町）

鹿児島県立埋蔵文化財センターでは、県考古学会の会長を長年つとめられた故河川貞徳氏の寄贈資料を整理する事業に取り組んでいます。『埋文だより』では、これまで河川氏が取り組んだ代表的な遺跡調査を振り返り、貴重な遺物や発掘当時の様子等を紹介したいと思います。みなさんもぜひ遺跡のあった場所を訪れて、先人の暮らしに思いを馳せてみてはいかがでしょうか…。

中岳洞穴は、曾於市末吉町南之郷に所在します。県道71号線と国道222号線が交わる高岡口から、国道222号線を都城方面に3.2kmほど進み、中岳ダム方面に左折します。そのまま600mほど進み左折すると、中岳洞穴に続く山道が見えてきます。山道を徒歩でしばらく進むと、右側に見えてきます。周囲はうっそうとした森林で、急峻な崖に洞穴がぽっかりと開いています。標高は290m程度で、洞穴の入り口は幅5.3m、高さ2m、洞穴の奥行は9mほどの小さな洞穴です。



中岳洞穴位置図

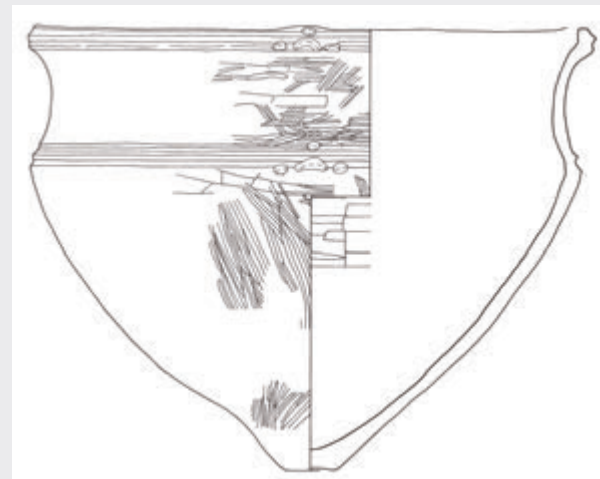
1969（昭和44）年に旧末吉町内の遺跡調査が行われ、その際に中岳洞穴の床面から縄文時代晩期の土器が採集されました。その後、中岳洞穴の遺跡としての意義を解明することを目的に末吉町教育委員会が主体となり、1978（昭和53）年2月20日から翌年の3月24日までに延べ4回、21日間発掘調査が行われました。河川氏は発掘調査から報告書作成まで指導・協力を行っています。

発掘調査が開始された当初は、洞穴が狭く、さらに落盤が発生しており大量の岩を除去しなければならないなど、なかなか思い通りにはいかなかったようです。さらに、洞窟の天井は溶結凝灰岩^{とよけつぎょうかいがん}できており、亀裂がある状態だったために、新たな落盤の危険性がありました。そこで業者に依頼して、ハッパをかけて落石等を除去してから調査を行っていたようです。



中岳洞穴の入口の様子

調査の結果、中岳洞穴からは、縄文時代後期から縄文時代晩期の遺構・遺物が確認されました。中でも、縄文時代後期後葉（約3,300年前）の土器は現在中岳Ⅱ式土器と呼ばれ、宮崎県南部から大隅半島の複数の遺跡で出土しています。他には貝殻、動物の骨、それらの骨で作ったかんざし^{こっかくき}などの骨角器が出土しました。貝殻は海に生息する貝のものです。一番近い志布志湾でも直線距離で18km以上離れていますが、ここまで持ってきたこととなります。動物の骨はイノシシ、シカ、ツキノワグマ、ウサギ、ムササビ、サル、キジの骨が出土しています。食料としたのでしょうか。現在九州内のツキノワグマは絶滅したと考えられていますが、食料となるほどたくさんいたのでしょうか。当時から自然の恵み豊かな土地だったのでしょうか。



中岳Ⅱ式土器実測図
町田堀遺跡（鹿屋市）出土品

洞窟遺跡は、遺物の状態が非常によいことが多く、当時の暮らしを解明する上でも重要です。その中でも中岳洞穴は、縄文時代後期の食料採取や生活の解明に大きな役割を果たしました。

洞窟遺跡は、遺物の状態が非常によいことが多く、当時の暮らしを解明する上でも重要です。その中でも中岳洞穴は、縄文時代後期の食料採取や生活の解明に大きな役割を果たしました。



洞窟内で見つかった動物の骨

ワクワク考古楽授業支援

廃寺は語る！ よみがえる
鹿児島県の仏教文化

県立埋蔵文化財センターでは、『ワクワク考古楽』を実施しています。『ワクワク考古楽』とは、それぞれの地域で発掘された本物の考古資料を活用し、埋蔵文化財センターの職員が授業支援を行うものです。今年度は9月現在、小学校・高等学校計7校で実施しています。授業では、鹿児島の歴史について、出土した土器や石器、発見された遺構などの図面や写真をもとに学んだり、出土した遺物について触れてみたりします。自分たちが住んでいる地域の遺跡から出土した遺物に触れることにより、郷土の歴史に関する興味・関心や郷土愛、そして自分もその地域の歴史を作っているという心を育むよいきっかけになっています。



さつま町立山崎小学校 発掘体験の様子

さつま町立山崎小学校では、校区内にある井手原遺跡いではらの発掘体験を行いました。みんな一生懸命に発掘をして、石器やたくさんの黒曜石の破片を見つけることができました。後日、小学校に遺跡で出土した土器や石器を持参して、それをもとに授業を行いました。自分の住んでいる校区には昔から人々が暮らしていて、そして歴史が今も続いていること、その歴史を作っているのは自分自身であることを感じていたようです。



志布志市立潤ヶ野小学校 授業支援の様子

志布志市立潤ヶ野小学校では、校区内にあるたくさんの縄文時代の遺跡について学習をしたあと、火起こし体験を行いました。火起こしには弥生時代に使用されていたと考えられている「舞錐まいぎり」という道具を使います。最初は速く回転させるのに苦労していましたが、コツをつかむと次々に火をつけることに成功して、全員が火起こしを成功させました。曾於市立岩北小学校でも火起こし体験を行いました。先生のサポートのもと、1年生でも火を起こすことができました。

「上野原縄文の森が遠くて、行く機会がなかなかない」、「歴史の授業をもっと充実させたい」など、先生方のご要望に少しでも応えることができるように、今後も多くの学校で「ワクワク考古楽」を実施していきたいと考えています。ホームページにもこれまでの授業の様子や指導案なども掲載しておりますので、是非ご覧ください。

当センターの見学は、土曜・日曜・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで、入館料は無料です。

(現在新型コロナウイルス感染症予防のため、整理作業の見学は休止しています。)

なお、当センターのホームページは、鹿児島県(<https://pref.kagoshima.jp/>)から入るか「上野原縄文の森」で検索してください。

また、フェイスブックは右側のQRコードからお入りください。

検索キーワード

上野原縄文の森

検索

クリック



ホームページ



フェイスブック

埋文だより 第86号

発行日 令和3年10月29日
編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318 鹿児島県霧島市
国分上野原縄文の森2番1号
TEL 0995-48-5811・FAX 0995-48-5820
URL: <https://www.jomon-no-mori.jp>
E-mail: maibun@jomon-no-mori.jp